

Title	インテリアに於けるマテリアルコーディネート方法論の可能性について
Author(s)	小宮, 容一
Citation	デザイン理論. 1992, 31, p. 70-71
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/52911">https://doi.org/10.18910/52911</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## インテリアに於けるマテリアルコーディネート方法論の可能性について

小宮容一

インテリア設計に於けるカラーコーディネート方法論はそれなりに確立されている。しかし、マテリアルコーディネート（仕上材構成と調和）の方法論となると、「まだまだ、これから！」というのが現実である。（建築仕上材個々の特性と評価に関する研究は、建築学会論文他に多々見受けられる。）マテリアルコーディネートの方法論が提示できるなら、インテリア設計上、教育上有意義なものとなるであろう。例えば図1はマテリアルコーディネートとインテリアスタイルをイラストしたものである。このようにパターン化すると特に初学者・初心者理解されやすいものとなる。そこで、マテリアルコーディネートの方法論をまとめるための現状の分析とそれに続く、キーとなる項目を抽出して試みることとする。

### ◆ 現状のインテリア分析

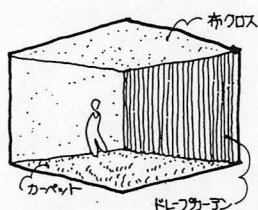
既存のインテリアを仕上げ材料面から観察してみると、

- ① 石材・ガラス・スチール多用の
- ② 木質系材料多用の
- ③ カーペット・織物クロス使用の
- ④ コンクリート打放し多用の
- ⑤ 土壁、たたみ、障子、杉板の
- ⑥ ビニールシート・ビニールクロス
- ⑦ その他のインテリア

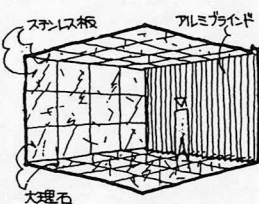
などのグループが見受けられる。これを仕上材料の特性から見て、①は滑・硬の構成、②は中程度の滑・硬の構成、③は粗・軟の構成、④は粗・硬の構成、⑤は粗・軟の構成、⑥は滑・軟の構成、などと分析することが可能であろう。（図2参照）次に空間の評価面から①をクールで清楚なインテリア、②を自然感のインテリア、③をやさげのインテリア、④を緊張のインテリア、⑤を緩和のインテリア、⑥安全・健康のインテリアなどとしてすることが可能であろう。このように、材料特性の構成の傾向と、空間評価の内容の間に何か相関的な関係が見いだせる可能性があるのではないだろうか。

### ◆ 仕上材の特性の評価

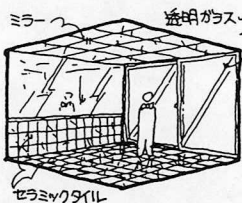
マテリアルコーディネートの方法論をまとめる為に仕上材の特性評価は、仕上材料に対し人間が感じとる質感ではなく、むしろ、物理的科学的な計測による数値評価による方が良いのではと考える。カラーコーディネートにおける、明度や彩度が数量的であるからこそシステムチックな方法論となるようである。したがって、ブルネル硬さ、モース硬さ、熱伝導率、摩擦係数、比重、圧縮強さなど、数値でしかも、インテリア空間に重要な影響をもたらす要素を取り上げなくてはならない。図2ではそのような要素の中で、2つの要素、硬軟・粗滑を取り上げてみた。硬軟の計測には多くの諸先輩の研究があるので参考としてよいと考えている。粗滑については、摩擦係数の他、単位面積当りの凹凸数とか、断面距離当りの高低面積とかを計測してはと考えている。また2要素2軸だけでなく第3の要素を加えた3次元マトリックスも検討して



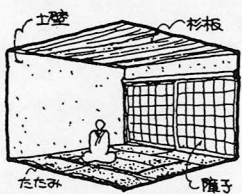
● 柔らかく、温かいインテリア



● 硬く、冷たいインテリア



● 光沢のある軽快なインテリア



● 光沢のない落ち着いたインテリア

図1 マテリアルコーディネートとインテリアスタイル  
（『図解インテリア設計の実際』小宮容一著 オーム社 1989より）

みたい。例えば比重を参考として「軽重」、圧縮強さやせん断強さを参考とした「強弱」などである。

◆ インテリア評価の形容語句

仕上げ材で構成されたインテリアが醸し出す、意味内容や雰囲気をなんらかの形容語句によって表現し、意志伝達する。マテリアルコーディネートでは、一方で構成されたインテリアの評価、一方で設計コンセプトから仕上げ材を選び構成する時に形容語句の必要性が考えられる。例えば、市販のグラビア・インテリアマガジンから形容語句を拾ってみると——気が休まる、落ちつける、快適に暮らす、和風、洋風、モダン、クラシック、人を温かく迎える、生活の香りが漂う、温もり、さわやか、個性的、シック——などがあり、様式表現、行動表現、感覚表現など多彩である。またカラーコーディネートに関し、日本カラーデザイン研究所のIMAGE SCALE から拾う——ブリティー、甘い、かわいい、うれしい、楽しい、やわらかい、ロマンチック、気軽な、健康な、家庭的な、自然な、エレガントな——などがあり、グルーピングも試みられている。しかしマテリアルコーディネートにはそのままでは適しない。マテリアルコーディネート用の独自の形容語句とグルーピングの考案が必要と思われる。

◆ 方法論の試案

色の属性に色相、明度、彩度があり、トーン表記がある。仕上げ材料に色相、色相環が成立するかという点と難しい。(図4参照) 明度、彩度はないけれどもそれに変わる尺度として硬軟度、粗滑度、軽重度など

の仕上げ材の特性をよりどころにできると考える。前述図2のように2次元マトリックスはわかりやすい、しかし、それだけでインテリアの評価とうまくマッチングできるだろうか。図5のように3次元マトリックスが可能か。可能として例えば粗・硬・重のレンガと粗・軟・軽の紙で構成されたインテリアはどう評価するのか。評価側のマトリックスはいかなるものか。直方体インテリアの6面が全て異なる仕上げ材で構成されているとすれば、方法論的にどう図示することができるか。トーン配色の様に類似トーン配色、対照トーンの配色はどのようにマテリアルコーディネートにおいて、類似特性構成、対照特性構成など論ずることができるだろうか。難問は多い。

◆ まとめ

難問は確かに多い。しかし、可能性はあると考えている。インテリアには仕上げ材料の単純な構成もあれば、複雑な構成もある。方法論に於いても、単純から複雑までステップを作ってもよいだろう。今回の発表はマテリアルコーディネートの方法論が成立するかの見通しを探ってきたが、方法論可能有りとして、今後順次詳しく研究して行きたい。

参考文献

武田雄二著『建築仕上げ材料の感覚的特性評価に関する研究』1989  
 磯山貞登著『質感の行動科学』彰国社 1988  
 日本インテリア学会第3回大会研究発表梗概集 1991

こみや・よういち 芦屋大学  
 1991. 11 第33回大会

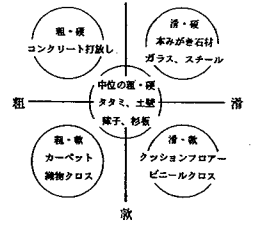


図2 試案：マテリアルコーディネート の位置

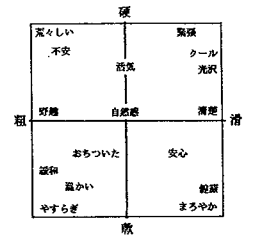


図3 試案：インテリア評価 の位置

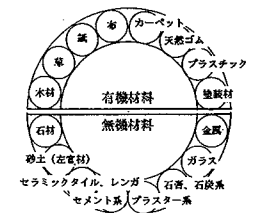


図4 試案：材料環

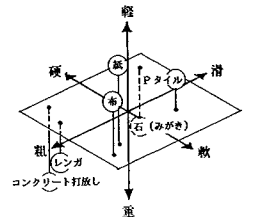


図5 試案：3次元マトリックスによる仕上げ材の位置